

バイ・トゥー・フォンさん

株式会社NTTドコモ・元ベトナム語通訳

実習生の通訳として初めて日本を訪れたバイ・トゥー・フォンさん。仕事で使える日本語力を磨くべく、退職して日本語学校での勉強に一層力を注いだフォンさんは卒業後、株式会社NTTドコモのベトナム語通訳に採用され、新しくできた部署の初代スタッフとして活躍しました。約10年間にわたる日本での留学、仕事を経て、現在はご家族とフランスで暮らしています。



フオンさんは日本に行く前、相当期間日本語を勉強してきたため、自分の日本語力に自信を持っていました。ところが、日本に来た当初は思うようにいかず、誤解を抱くことが少なくなかったそうです。

「渡航が近づくにつれ、ワクワクしながらも日本の地へ足を踏み入れる不安が押し寄せてきました。」

2014年9月、私は、ある組合での通訳業務で鹿児島へと向かいました。日本語は5年以上勉強してきましたが、日本語センターでの学習にすぎません。ベトナムの日系企業で仕事をしながら、より高いレベルの日本語を目指して勉強を続けて、満を持して日本へ行きました。そのため、コミュニケーションをとるのは簡単、と高を括っていました。

渡航が近づくにつれ、ワクワクしながらも日本の地へ足を踏み入れる不安が押し寄せてきました。私の下手な日本語がビジネスで通用するのか、と緊張、興奮、不安が入り混じった気持ちでした。

日本の空港へ降り立つと、社長が空港まで私を出迎えに来てくれましたが、私は嬉しさ
と不安のあまり、「初めまして。私はフオンで

す。」としか話すことができませんでした。

それから、福岡空港から鹿児島まで新幹線に乗りました。出迎えの時には、社長のほかにもう一人ベトナム人女性がいました。日本語でどうやって社長とコミュニケーションをとったらいいのかわからなくて、ずっとその女性とだけ話をしていました。



「鹿児島は今でも一番行きたい場所」



理由は、鹿児島には親切な人たちが沢山いて、1年間いろいろとお世話になったお父さん、お母さんと呼べる人たちがいるから。鹿児島といえば、鶏の刺身と豚骨ラーメンが有名です。ふつう、刺身といえば魚の刺身を思い浮かべるとは思いますが、鹿児島で刺身といえば鶏です。

自分の日本語力で大丈夫と言い聞かせつつ、通訳の仕事では知らない単語を耳にします。仕事先の鶏肉工場で日本人のマネジャーが研修生に教える際、内容を全部理解することはできませんでした。実のところ、マネジャーが話す内容を100%聞き取れたわけではなく、動きを見て推測しながら通訳していました。例えば、包丁はここに当てて45度の角度で、というような説明は聞きとれず、包丁さばきだけを見ていました。仕事を始めたばかりの頃は、このような通訳がとても難しく感じ、すごくストレスが溜まりました。

通訳の仕事は責任が重く、というのも訳した内容が直接研修生の仕事に影響するからです。

当時、私の仕事は通訳でしたが、ただその場に立って通訳する以外に他の研修生と同じ仕事もしました。工場にまつわる単語や器具の名称を覚え、わからないと言われれば聞き返し、何度も何度も聞き返しました。

「通訳の仕事は責任が重く、というのも訳した内容が直接研修生の仕事に影響するからです。」





まだ自分の日本語力が足りないと思ったので、進路を変更し、1年間日本語コースへ通うことにしました。学費は貯金で賄いました。通学先は、桜美林大学にある外国人留学生向けの日本語コースです。

在学中は、ありとあらゆる交流活動に参加し、外国人学生を対象としたグループとマレーシア人が立ち上げた2つのグループに所属しました。

土曜日と日曜日はほとんどアルバイトをせず、グループ活動に参加することにしました。



桜美林大学キャンパス

おむしるHJ。ジュニアーズ



● 日本に来て一番最初にやるべきことは、在留カードの作成です。通訳の友人が同行してくれました。そこで、私の生まれた年は元号で何年かと聞かれました。昭和62年生まれの私ですが、私の生まれた元号にあたる天皇について突然聞かれて、当時全く理解できませんでした。中国人の友人から、日本語を勉強しているのに知らないのかと言われて、恥ずかしい思いをしました。結局、友人が助けてくれましたが、今でもその時の恥ずかしさは忘れません。

● 私は桜美林大学の構内にある外国人留学生を対象とした日本語コースへ通いました。大学の最寄り駅にはそば屋があり、そば屋のカウンターにSuicaと書かれた標識が目に入りました。てっきり、西瓜を売っているのだと思い込み、そばと一緒に西瓜を注文できると思ったのです。支払いに使うSuicaカードのことだと、ずっと後になってそば屋のスタッフが教えてくれました。その時初めて、東京ではSuicaが支払いに使われることを知りました。

● 観光で奈良の大仏や大阪へ行った時、電車の切符の買い方が分かりませんでした。一番安い料金をランダムに押して切符を買ったものの、より遠くの駅まで行くと料金が足りず、駅を乗り越すと改札口でブザーが鳴り、改札を出ることができません。社長に助けを求め、社長は切符を改札口の駅員へ持って行き、私は足りない分の料金を精算しました。

● 学校では、元旦にお正月の雰囲気を感じに体験するイベントがありました。私は、ハワイアンダンスこと、フラダンスのパフォーマンスを披露しました。イベントを締め括るフィナーレは、先生方へお礼を伝えるプログラムでしたが、イベント主催者から、学生を代表して私に起立を求めるアナウンスがありました。突然の指名を受けて、先生方へ送る素敵なことばを準備するゆとりもなく、只々お礼を述べました。そして、機転を利かせて座っている他の学生に対して、先生方へ感謝のことばを一斉に送るよう呼びかけたのです。

株式会社NTTドコモで 通訳を務めた後にフランスへ

桜美林で1年間勉強した後、株式会社NTTドコモが募集するベトナム語通訳の求人へ応募し、新しくできた部署の初代スタッフに採用されました。同部署での勤務を経て、結婚して家族と一緒にフランスへ行きました。

とはいうものの、フランス語ができず、公共交通機関の利用時や買い物をする際に困り果てました。皆さんも、日本へ来たばかりの頃は、日本語力が足りないために同じような困難に直面するのではないのでしょうか。

私は特定の場面が設定されたフランス語の教材を使って勉強しています。例えば、レストランに入ると、まずは予約の有無を聞かれ、その後に料理、ドリンクを注文し、前菜、メインディッシュ、肉の焼き具合はどうするかと聞かれます。場面ごとにコンテキストを分けて使った方が応用しやすいと思います。あたかもレストランに入った場面を想像しながら、何を話すのかを考えれば実際の場面で驚くにはあたりません。

日本で結婚

フランスでのひととき

